

災害を乗り越え越え開園へ
区の連携一層強まる

出石町鳥居の「鳥居やすらぎ市民農園」は、同区の区民で切り盛りし、その活動によって区民相互のつながりが強まり、少しずつ活気が出てきています。今回は、その代表者を紹介します。

広井昌利さん(67歳) 出石町鳥居

活気を取り戻せ!
荒地を有効活用

農作業をしてから出勤する。仕事帰りには夕食の材料に、自分が手塩にかけて育てた野菜を収穫する。こんな光景が鳥居やすらぎ市民農園で見られます。

同農園管理組合組合長の広井昌利さんは「農業の楽しさを一人でも多くの人に知ってもらいたくて市民農園を開園しました」と話します。



▲今秋行われた収穫祭。バンド演奏や即売会にぎわった

作地でしたが、作付けをする人も少なく、荒地となっていました。

そこで、鳥居区では、この耕作地を活用して区を活性化しようとして検討したところ、市民農園にし、そこに食堂を併設して区民で運営していこうと決定しました。

ところが、着工後の平成16年、台風23号が鳥居区に甚大な被害をもたらし、変わり果てたまちの姿に区民の心まで沈んでしまいました。

しかし、嘆いてばかりいられず、広井さんは区民と一丸となり、農園を完成させ、区に活気を取り戻そうと立ち上がり、平成19年4月の開園にこぎつきました。

気軽に農業体験

同園では、1区画50平方

さあ始めよう
健康な体づくりは農業から

メートル単位で借りることができ、おいしい空気と肥沃な大地に恵まれた環境の中、すがすがしい気分が農業が体験できます。ここで収穫された野菜は、どんなにいいことでしょうか。少しぐらい形がいびつでも最高の味に出合えるはずですよ。

では、農業の経験がない人が農業を始めたいと思ったら、どうすればよいのでしょうか。

農業講習会で

“土いじり”を勉強

同園では、年4回の農業講習会が行われます。日ごろ、農業をしていて疑問に感じていることなどについて、丁寧にアドバイスが受けられます。

広井さんは、このような講習会を企画し、自らが講師となり、培った知識を伝えてくれるほか、年4回の収穫祭も行き、毎回、大勢の人々にぎわっています。

忘れてはいけないのが陰から農園を支える「ひまわり会」の皆さんです。区の女性部で構成し、管理棟に併設された食堂「鳥居のさと」を順番に切り盛りしています。

看板メニューの「かあちゃ



▲鳥居やすらぎ市民農園管理組合組合長の広井昌利さん。さまざまな人から農業のノウハウを学び、知識を広げた。趣味も農業というほど、根っからの農業好き

「開園してから区民相互のつながりが強くなった」と広井さん。休日には農業をして昼食は地元野菜を使った料理を食べる。こんな生活を皆さんも始めてみませんか。



▶順番で切り盛りする「ひまわり会」の女性たち

みえ保育園

(豊岡)

〈園児148人〉



周囲には見渡す限りの自然が広がり、空を見上げればコウノトリが舞っている。このような恵まれた環境の中にみえ保育園があります。

11月6日、毎年恒例のもちつき大会が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

獅子舞で笑顔と泣き顔

やっと来ま

したもちつき大会。園児たちは保護者や地域の方々と一緒にもちつきができる日を心待ちにしていました。



もちつきを前に太鼓と笛のお囃子が始まるとみんなの前に獅子舞が登場。園児たちは獅子舞の不思議な動きに釘付けになっていました。



その後、獅子舞に頭をかまれると1年間健康

に過ごせるとあって、獅子舞が順番に子どもや大人をかんでいくと、園児たちは笑ったり泣いたり大さわぎでした。

法被を着てきねを持つてさあつくぞ



法被を着た保護者や地域の方々が、お囃子に合わせてきねと臼で軽快にもちをついて

いきます。もちつきが始まると、周りの園児たちが元気に応援して、つき手は力いっぱいにもちをつきました。



園児ももちつきに参加

次は園児たちがもちをつきます。子ども用の小さなきねでペタンペタン。もちを臼から取り上げると、今にも落ちそうな程、柔らかく仕上がっていました。

アツアツのおいしいもち



つき上がったもちを保護者の方々が小さく丸めて、きな粉と砂糖しようゆで味付けしていきます。園児たちは、「待ってました」とばかりにおいしいもちをほお張り、笑顔いっぱいになりました。

顔輪笑いの

人形劇サークル『うんぱっぱ』(豊岡)

お呼びが掛ければ飛んでいきます!!

「うんぱっぱ」は、豊岡地域を中心に活動している人形劇サークルです。平成8年に発足し、現在9人が所属しています。月に2〜3回程度、地区公民館などで練習や人形作りを行っています。

グループ名「うんぱっぱ」の「うん」は楽譜のウ(休止符)、「ぱっぱ」は♪(四分音符)。うんと休んで無理せず一歩ずつ前進しようという意味を込めて名付けられました。

代表を務める高橋浩子さん(大磯町)は「私たち主婦にも何かできないか、と仲間呼び掛け、集まったメンバーで活動を始めました。みんな集まるのが楽しく、ストレス発散の場になっています」と笑顔で話します。

「うんぱっぱ」の手がける人形劇は、ギニョールと呼ばれる指人形で、舞台から人形まですべて手作り。活動を始めたころは、保育園や幼稚園に「人形劇をさせてください」とお願いしていましたが、最近では保育園や幼稚園のお誕

生会やクリスマス会、子育てセンター、地区子ども会から小学校の授業まで幅広く公演依頼を受け、年間約15回の公演をこなしています。

「公演中は子どもたちと人形が会話する、その一体感を感じる事ができ、とても楽しい」と人形劇の魅力を高橋さんは語ります。

「これからも無理をせず楽しく続けていきたい。子どもたちの笑顔が私たちへの何よりのご褒美です」と話すメンバーの顔は、演じる喜びに満ち溢れていました。



▲城崎子育てまつりで「おちゃわんびっくりこ」の公演を終えたメンバー